今では蚊帳も要らない
見事衛生部落を築く
輪番制で活躍の小合西部婦人会

蚊とハエのいない衛生部落に、ここ西内西金沢部落婦人会では消毒方法の研究をはじめたが、小合地区四部婦人会では既に五年前から行い、今では東南両地区も呼応、効果上々で蚊帳（カヤ）のいらない部落があるほどに徹底し、衛生部落の模範とわれている。

消滅部落新、町内会は、そして健康的な生活を打立てるためにドシドシ衛生運動が消滅化していくことが嬉しい、小合西部婦人会の衛生運動をここに紹介する。

はじめたのは　昭和二十六年以来、毎年春になると、四月から、害虫のリョウヨウしてはいけないとの考えから、婦人会長（現）伊勝ジュンさんらが先頭にたって蚊やハエのいない清潔な農村建設にのりだした。

組織は　衛生班の必要を村からせがまれたが設けないで会員二百五十名を部落毎に名付け班を作ってその中から毎月二名ずつ輪番でその役目に当った。

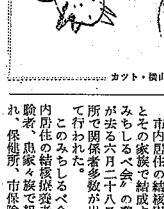
驅除期日は　毎年四月から十月まで、毎月上、中、下旬の三回

薬品と器具　については、は薬品にはDDTを使用、購入は会長（現）伊勝ジュンさんが、今年は各戸で出資ジョロ式のもので散布。

驅除カ所　寝室、便所、下水堆肥、家畜小屋など。

経費は　当時役場に陳情して村費の補助をうけ、乳剤や粉剤を使用、購入はその係（部落役員）が役場から持って来たが今は各区長から、器具は婦人会が各戸に配布。

婦人



カット・横山林一

西部分館（山谷）で婦人学級

公民館西部分館では七月十二日婦人学級を開講、今後毎月一回以上通信制として開講。開講数、講師は鈴木新津保健所長によるとの事。

一ノ町婦人会
再発足

会長役席だった一ノ町婦人会では区長を顧問に、区婦人会の協力を得てモデル婦人会を計画、協議の結果、去る七月十日その創立総会を公会堂で挙げ、各組選抜者の婦人会員を中心に、会員の活動の為の組織で再発足。